

令和5年度第1回千代田区産業振興連絡調整会議 議事要旨

- | | |
|--------|---|
| ■日 | 時：令和6(2024)年1月19日(金) 10:00~12:15 |
| ■会 | 場：千代田区役所 4階 402、403 会議室 |
| ■出席状況 | ：出席委員 12人 |
| ■千代田区 | ：地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興係長、経営相談・融資担当係長、産業企画担当係長、観光・地方連携係担当者、事務局2名 |
| ■議 | 題：(1) 産業振興基本計画の概要と推進体制について
(2) 産業コミュニティ形成支援事業について
(3) 地域課題解決支援事業について
(4) レシートを活用した区民生活応援事業(レシ活ちよだ)実施状況について |
| ■事務連絡等 | ：(1) 第15回千代田ビジネス大賞について(まちみらい千代田)
(2) その他 |

1. 委員委嘱
2. 開会あいさつ
3. 委員紹介
4. 事務局紹介
5. 座長・副座長の選任
6. 議事

(1) 産業振興基本計画の概要と推進体制について

<(1) について事務局から説明>

- 観光イベントの開催と外国人の誘客促進について、例えばイベントの際に多言語の案内文やガイドブック作成するなど、連携して実施して欲しい。区としては何か考えていることはあるか。
- 最近の訪日外国人はフリーWi-Fiを使わず、SIMカードを購入して日本人と同じようにスマートフォンを使っている。スマートフォンの翻訳機能を使って、日本語のHPなどを自国の言葉で閲覧している。お店自体は外国人の受け入れを考えていなくてもSNSなどで紹介されていると来店される。また、地図をスマートフォンで見ているが、行きたい方角が分からないと、よく道を聞かれる。街の中でランドマークを作ることや表示で方角が分かるようになっていると、区内観光地を回ってくれるのではないかと思う。区としては外国人観光客の誘客促進や区内回遊をどのように考えているか。
- 商工観光課長) 現在は、日本語でパンフレットを作成し内容の充実に努めているが、それ以上は労力的に厳しい状況である。外国語表記のパンフレットの必要性はあると思うが、今後は紙とデジタルのどちらが良いかも含めて検討が必要だと考えている。Wi-Fiの今後の方向性や外国語対応も含めて、区内回遊に向けて事業内容を検討している。技術進歩が速いなかで、単に回遊をするだけでなく地域課題を解決して

いける新しい仕組みが出来ないかと考えている。

今年度からスタートアップ企業と協働を始めているが、区が想定していた区内回遊や地域課題を解決する仕組みを軽く超える技術や提案がある。皆様のご意見を伺いながら進めていく。

- 観光協会) 今回の改定で、観光が4本の柱の1つに入り、観光協会が事業を実施する部分もある。さくらまつりの英語マップは過去9回作成している。今後は紙が良いのか、どのようなコンテンツを入れるのかも含め検討中。商工観光課と一緒に、さくらまつりで電子マップを取り入れていく予定。外国語対応については、スマートフォンなどに翻訳機能がある程度備わっているため、まずは日本語の電子マップでさくらまつりの情報を入れていきたいと考えている。今後の千代田の観光についても、商工観光課、区とも協力しながら、区の施設や観光的な施設を入れて、電子化を進めていかなければならないと考えている。さくらまつりで電子マップについて進めながら、今後につなげていきたいと考えている。

外国人向けの観光ツアーは、さくらまつりから始めていきたいと考えている。インバウンドの志向も、普通に見るのではなく、体験したり、本当に日本らしいものを見たいということが非常に多いと聞いている。まずは、インバウンド向けに地域を巡ってもらえるようなツアーを考えている。誘客促進に向けて外国人向けサイトの在り方、情報発信をどのようにしていくかが課題になっている。

- 東京都が年1回、国別外国人旅行者行動特性調査を実施している。2015年と比較すると2022年は秋葉原への訪問者数の割合が下がってきている。行政と一緒にやっていると、このままだと秋葉原が世界的な観光地であったのが消えてしまうような危機感を持っている。秋葉原のサブカルや訪日外国人、地域活性化、安心安全など、どのような取り組みを考えているのかをお聞きしたい。
- 商工観光課長) まちの賑わいはとても大切で、事業者にとっても大切だが、まちに誇りを持っている住民にとっても大切だと思っている。秋葉原だけでやるのではなく、周辺で連携することで、区内の産業を上向きに出来るのではないかなど、様々な考えがあると思う。来年度は様々な人々からご意見をいただいて事業内容を検討していく。
- 街中で外国人観光客が多くなっていると感じる。民間事業者の事業で回遊していると思うため、区内の他の地域も回遊していただけるように、捉えられると良いと思う。民間の事業者が千代田区を舞台に行っていることを、ぜひ実態把握をしてどう取り込んでいくのか検討して欲しい。
- 姉妹都市交流自治体について、今後として交流を増やす計画はあるか。
- 商工観光課長) 現状は新たに交流自治体を増やすことは考えていない。地方の自治体と連携するには、相手方と誠心誠意、丁寧な対応が必要になるため、現状は事務局の労力として手一杯。ただ、今後災害に見舞われる可能性があるとのことで、少しでも

多くの自治体と関係性を持てたら良いというご意見はいただいている。今までと違うやり方を検討しつつ、今後全庁的に、例えば防災の視点、環境の視点など様々連携をしているため、そちらとも比較しながら実施していく。

- DXについて、中小企業では現時点でデジタル人材を採用できていない企業は、おそらく今後も採用できないと考えている。人材の取り合いになっている。現在採用できていない企業が脱却するには、経営者がデジタル人材になるしかないと考えている。DXとは何かを理解して、人に話せるようになることが一番だと思っている。デジタル技術を活用して業務プロセスやビジネスモデルを変革すること。この意味をきちんと理解している経営者がどの程度いるかというところが一番の問題だと思う。
サイバーセキュリティセミナーの実施はとてもいいことだと思うが、サイバーセキュリティ自体はDXではないので、その前提となるものなので、今後どのようなことをして中小企業の活性化につながるDXを進めていこうと区は考えているか伺いたい。
- 商工観光課長)DXからは少し話が逸れるが、区からの情報が各企業に届かない現状がある。課題の話し合いも出来ていない状況のため、話し合いの場の整備から進めていく。その上で東京商工会議所でもDXに関する講習会を実施しているため、一緒に出来ることからやっていく。具体的な目的の設定や、社会の変革に合わせた目標はまだ持っていない状況。
- DXに関して自分たちは難しいことは考えないようにしている。ビジネスだけでなく、自分たちの日常生活が楽しくなるか、楽になるか、日常生活にどのように取り込んでいくかということを考えている。全く関心が無い方や活用する方など様々いるため、区役所で最先端の技術を使えば、生活向上や困りごとを簡単に解決できると、周知したらよいと思うが、区ではどのように考えているか？
- 商工観光課長)どのようにしたら、利用者が楽になり、楽しめるかは大切な視点だと思っている。例えば、経営相談では、電話予約をExcel管理でしていたが、利便性向上の為にオンライン受付の実施を検討している。一つひとつ乗り越えながらやっていく。
- 新規事業で2点、新産業を核とした街のにぎわい創出と、地域に根差した産業振興の取組について調査を開始して、費用対効果と地域への影響を踏まえ慎重に検討中とのことだが、何がネックで、どのようなスケジュール感を考えているか伺いたい。
- 産業企画担当課長)こちらは、当初想定していたイベントの支援事業を実施しなかったということでD評価としている。実施計画の為に、新産業として秋葉原を中心としたe-スポーツの成長を後押しし、関連事業者の集積を促すことで、まちの活性化を図る取り組みを打ち出していたため、産業特性の調査を昨年度実施。福祉の領域、生活の質向上、教育領域、産業的にはプロスポーツ分野の高い成長性を確認した。議会とのやり取りで、公的部門がゲームタイトルをきちんと選別する必要があるとの意見をいただいた。また、東京都の実施したe-スポーツのイベント調査を実施したが、費用

対効果が難しいという結論に至っている。パラスポーツとして生涯学習・スポーツ課と一緒に昨年、新たなe-スポーツを実施した。体を動かすことを目的としており参加者の方が楽しんでいただいた実績がある。こういったことで浸透を図りながら今後は進めていきたいと考えている。

- 地方連携について、意見とアイデアを含めての発言です。環境負荷低減で、例えば連携地域の木材の活用や、エネルギーの活用、森林の保全について都市と地方が連携してどう持続可能にやっていけるかを、区内でリノベーションするときの木材を連携地域から調達するなど後押しになる制度にしていくなど、大胆な視点から考えていけると良いと思う。この領域はスタートアップもとても注目している。エネルギー、森林、もう少し広く捉えると、循環型の経済、サーキュラーエコノミーみたいなキーワードも投資が集まってきているような領域である。この地方連携という狭義の枠で環境を捉えるところも大事だが、もう少し広くスタートアップとか産業のところ、循環型の経済とか地方連携を捉えていけると、今まで入ってこなかったプレーヤーが入ってくる可能性があると思う。

地方と区民との連携について、ツアーとかイベントで日常的にきっかけをつくっていくというところはこれからも持続していくことは大事だと思う。同時に、それを日常化していくような仕掛けも何かできると良いと思う。小中学校の教育留学を、移住や転校をしなくても任意の期間受け入れるという教育留学制度がある。移住はちょっと難しいが、都市に住みながら地方に親子で1か月滞在してみるとか、何かそういったイベント以外にもいつでも2拠点で連携した暮らしができるようなことを下支えしていくというのは結構可能性があると思う。都市から地方へと一方向だけでなく、例えば、地方から千代田区の小中学校に留学しに来る方々を支援していくのも良いと思う。放課後の活動とか、住環境を少しリーズナブルにどう提供できるというところに何か仕掛けができると面白そうだと思う。

- 地方との連携の部分だけではなくて、ぜひ商工観光課と環境政策課との連携は、地域の問題にアプローチしていくように感じるので進めていただきたい。

(2) 産業コミュニティ形成支援事業について

<事業の全体、新規事業について事務局から説明>

- 千代田区はエリアごとによりキャラクターが強いまちだと感じている。エリアごとにくさびを打っていくとか、コンセプトを少し尖らせてイベントを仕掛けていくとか、誘致をしていくことは、また次の段階として良いのではないかと思った。
- 商工観光課長)この事業は今年の12月12日にキックオフイベントを開催して、そこからスタートしている。今年度、来年度は参加いただくメンバーを増やしたいと思っている。その中で、様々な企業家が考えている課題などを、例えば分科会のような形式に持っていくとか、ご意見をいただいたように、何か尖った形をぜひ創っていき

たいと考える。

- 外国人起業家からの相談を受ける。特に韓国スタートアップが世界展開する上で、日本で展開を考えると、様々な障壁がある。そこを手伝える行政のスタートアップ支援はあまり見かけないので、何か特色を出したら面白いと思う。
- 商工観光課長)東京都もスタートアップ支援を実施しており、連携を図りながら地域の力になり、最終的に持続的な成長発展を遂げるという形で進めていきたいと考えている。

(3) 地域課題解決支援事業について

<事業の全体、新規事業について事務局から説明>

- 観光協会)令和6年度に向けた動きの中で、観光・飲食アプリによる区内回遊促進施策を検討中とのことだが、観光協会はどのように協力をしていくか検討したいと思う。
- このアプリは、AI機能なども取り込んでいるのか。
- 産業企画担当係長)AIではなく、インスタグラムを中心に写真をベースに自身の好みを登録すると、似たものを推奨してくれる仕組みになっている。活用方法は検討中で、様々なものを試行していきたい。

(4) レシートを活用した区民生活応援事業（レシ活ちよだ）の実施状況について

- 年齢の高い人は、ほとんど参加できていないとの声を商店街や町会で聞く。今後事業を実施する際には、参加しやすい工夫を凝らしていただきたい。
- 商工観光課長)区民や商店街の方々からご意見をいただいている。今回は、デジタルを使って事業を実施し、区民限定で還元の事業の為、皆様の関心は高かった。良かった点としては、デジタルを使っているため、今までは得られなかった情報を得ることが出来た。例えば、事業への参加状況や、いつ、何を使われたかを個人情報を除いた情報を得ることが出来た。一方で、参加が困難な方がいることは事前に想定していたが、事業が開始すると想定外のこともあった。反省点を見直し、さらに使いやすいものにしていけるように努力をしていく。
- 高齢の友人たちもなかなか使いこなせてなかった。使っていても、分からないことも多くあった。一方で、子育て世代では利用している方もいる。また、区民の確認方法が、マイナンバーカードや免許証を送付することになるため、個人情報について不安に思う声も聞いた。今後配慮をしていただきたい。
- 商工観光課長)不安が先立った状況が、この事業の反省点であり今後、必要なときに教訓とさせていただく。

2 事務連絡

<第15回千代田ビジネス大賞について、まちみらい千代田から説明>

3 閉会

座長)これにて閉会します。長時間にわたり活発なご議論をありがとうございました。